

関根政美教授略歴

学歴

- 一九七四年 三月 慶應義塾大学法学部政治学科卒業
一九七六年 三月 慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程修了
一九七九年 三月 慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学
一九八九年 二月 社会学博士（慶應義塾大学）

職歴

- 一九七九年 四月 慶應義塾大学法学部専任講師
一九八〇年 七月 ニューサウスウェールズ大学経済・商業学部訪問研究員（一九八三年三月まで）
一九八四年 四月 慶應義塾大学法学部助教
一九八五年一〇月 慶應義塾大学国際センター学習指導主任（一九八九年七月まで）
一九八五年一〇月 慶應義塾大学学生部委員（一九八九年七月まで）
一九八九年 四月 慶應義塾大学法学部教授（現在に至る）

一九八九年 七月 在オーストラリア日本大使館専門調査員(一九九一年八月まで)

一九九〇年 四月 慶應義塾大学大学院法学研究科委員(現在に至る)

一九九一年一〇月 慶應義塾大学大学院法学研究科学習指導委員(一九九五年九月まで)

一九九二年 四月 慶應義塾大学大学院社会学研究科委員(現在に至る)

一九九三年一〇月 慶應義塾大学新聞研究所(メディア・コミュニケーション研究所) 所長(二〇〇七年九月まで)

一九九三年一〇月 慶應義塾大学法学部長補佐(一九九九年九月まで)

二〇〇三年 四月 同右(二〇〇五年九月まで)

二〇〇三年 四月 二一世紀COE・CCC教育研究拠点事業推進委員(二〇〇八年三月まで)

二〇〇八年 四月 グローバルCOE教育・研究拠点事業推進委員(二〇一三年三月まで)

※その他の学内委員・常任委員、人事委員会、カリキュラム運営委員会(委員長)、入試委員、図書委員、学部教育諮問委員会、慶應義塾学術出版基金(審査委員)、塾編集委員会、三田評論編集委員会、小泉信三記念講座運営委員会、福澤基金運営委員会、福澤賞・義塾賞選考準備委員会、政治学専攻ジャーナリズム・コース設立検討委員会、政治学専攻新コース設立検討委員会、法学政治学論究編集委員会、等

※非常勤講師・青山学院大学女子短期大学、カリタス女子短期大学、東京大学法学部(本郷)、東京大学教養部(駒場)、駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部、等

※その他・国立国会図書館特別研究員、国立民族学博物館共同研究員、日経CNBC番組審議委員会委員長、等

学会・社会活動

オーストラリア学会…代表理事（会長）（二〇〇四年二月―二〇一〇年二月）。その他『オーストラリア研究』編集委員、副代表理事、監事などを歴任

※日豪会議（日本・豪州政府共催）にオーストラリア学会代表理事として参加（主に文化交流 部会の司会・まとめを担当）

三田社会学会…会長（二〇一一年七月―二〇一四年七月）

日本社会学会…英文学会誌 *International Journal of Japanese Sociology* 編集委員（二〇〇〇年―二〇一二年）

日本国際政治学会…トランスナショナル分科会責任者（二〇〇二年―二〇〇六年）

日本学術会議…連携会員（地域研究基盤整備分科会・多文化共生分科会・情報と社会変容分科会）（二〇〇四年一月―）

その他…組織学会会員、関東社会学会会員、日本政治学会会員、等

関根政美教授主要業績

【単著】

- 一九八九年 七月 『マルチカルチュラル・オーストラリア——多文化社会オーストラリアの社会変動』成文堂
(博士論文の公刊、一九九〇年度櫻田会政治研究奨励賞)
- 一九九四年 四月 『エスニシテイの政治社会学——民族紛争の制度化のために』名古屋大学出版会
- 二〇〇〇年 四月 『多文化主義社会の到来』朝日新聞社(朝日選書、二〇〇一年度義塾賞)

【共著・編著・共編著】

- 一九八八年 一二月 (竹田いさみ・鈴木雄雅他との共著) 『概説オーストラリア史』有斐閣(編集/序章、二章、一〇章、一一章執筆)
- 一九九六年 三月 (有末賢・霜野壽亮との共編著) 『社会学入門』弘文堂(編集/二章、六章執筆)
- 一九九八年 三月 (可児弘明・国分良成・鈴木正宗との共編著) 『民族で読む中国』朝日新聞社(編集/二章執筆)

- 二〇〇一年 三月
 (黒柳米司・広瀬崇子との共著) 『東南・南アジア オセアニア』自由国民社 (第三部「オセアニア」執筆)
- 二〇〇二年 二月
 日本国際政治学会 『国際政治』第二二九号特集「国際政治と文化研究」(編集/序論執筆)
- 二〇〇三年 一〇月
 日本社会学会 *International Journal of Japanese Sociology*, No.12 “Special Issue on Japanese Society and Ethnicity” (編集/序論執筆)
- 二〇〇四年 六月
 (山本信人との共編著) 『海域アジア (現代東アジアと日本4)』慶應義塾大学出版会 (編集/一二章執筆)
- 二〇〇五年 三月
 (有末賢との共編著) 『戦後日本の社会と市民意識 (叢書21COE-CCC多文化世界における市民意識の動態7)』慶應義塾大学出版会 (編集/七章執筆)
- 二〇〇八年 一月
 (塩原良和との共編著) 『多文化交差世界の市民意識と政治社会秩序形成 (叢書21COE-CC C多文化世界における市民意識の動態37)』慶應義塾大学出版会 (編集/序論執筆)
- 二〇〇八年 三月
 『東アジアの電子ネットワーク戦略 (慶應義塾大学東アジア研究所叢書)』慶應義塾大学出版会 (編集/序論執筆)
- 二〇〇九年 三月
 (石井由香・塩原良和との共著) 『アジア系専門職移民の現在——変容するマルチカルチュラル・オーストラリア』慶應義塾大学出版会 (第一部第一章執筆)
- 二〇一三年 一月
 (吉原和男編者代表・蘭信三・伊豫谷登士翁・塩原良和・山下晋司・吉原直樹との共同編集) 『人の移動事典——日本からアジアへ・アジアから日本へ』丸善出版

【書籍の翻訳】

一九八五年二月

D・ジェンシュ（関根薫との共訳）『オーストラリア政治入門』慶應通信

一九八七年一〇月

B・フォード／D・ブラウマン編（関根薫との共訳）『オーストラリア労働組合入門』慶應通信

一九九四年二月

V・J・カラン（関根薫との共訳）『オーストラリア社会問題入門』慶應通信

一九九六年二月

S・カースルズ／M・ミラー著（関根薫との共訳）『国際移民の時代』名古屋大学出版会

二〇〇二年八月

D・ヒーター（田中俊郎との共訳）『市民権とは何か』岩波書店

二〇一一年一月

S・カースルズ／M・ミラー著（関根薫との監訳）『国際移民の時代（第四版）』名古屋大学出版会

二〇一二年一〇月

D・ヒーター（田中俊郎との共訳）『市民権とは何か』岩波書店（岩波人文書セレクションの一冊として再刊）

【論文の翻訳】

一九九三年九月

B・アンダーソン（「遠隔地ナショナリズム」の出現（特集〈民族〉という名の病い））『世界』五八六号

一九九四年四月

マサオ・ミヨシ「国境なき世界？——植民地主義から多国籍主義への動きと国民国家の衰退」『批評空間』Ⅱ期一号

一九九七年六月

① プーコン・キー／ロナルド・スケルドン「香港中国人のオーストラリアへの移住と定住」（一〇章）

【論文】

②クリステイーン・イングリス／チュン・トン・ウー「シドニーの香港中国人」(一章)
ロナルド・スケルドン編著(可児弘明・森川眞規雄・吉原和男監訳)『香港を離れて』行路社

一九七八年 一月 「近代日本における工業化の一断面——幕末・明治初期の横須賀造船所」『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』一八号

一九七八年一〇月 「現代日本における工業化の一断面——高度産業化社会と日本の経営」『慶應ビジネスフォーラム』二二二号

一九八〇年 四月 「幕末・明治前期日本の初期工業化過程に関する若干の考察(その一)——横須賀造船所建設を一事例として」『法学研究』五三卷四号

一九八〇年 五月 「幕末・明治前期日本の初期工業化過程に関する若干の考察(その二)——横須賀造船所建設を一事例として」『法学研究』五三卷五号

一九八〇年 九月 「現代組織論の動向と人間仮説の変遷」『法学研究』五三卷九号

一九八二年 一月 「オーストラリアの歴史的發展と現代の諸問題(一)」『法学研究』五五卷一—一号

一九八二年 二月 「オーストラリアの歴史的發展と現代の諸問題(二)」『法学研究』五五卷二—二号

一九八三年 一月 「オーストラリアの歴史的發展と現代の諸問題(三完)」『法学研究』五六卷一—号

一九八三年一〇月 「オーストラリア社会論の課題と方法に関する若干の考察——地域研究としてのオーストラリア社会論」慶應義塾大学法学部編『慶應義塾創立一二五年記念論文集(法学部・政治学関係)』

慶應義塾大学法学部

- 一九八四年 一月 「戦後オーストラリアの大量移民と「白豪政策」の終焉——多元文化社会への歩み(一)」『法学研究』五七卷一号
- 一九八四年 二月 「戦後オーストラリアの大量移民と「白豪政策」の終焉——多元文化社会への歩み(二完)」『法学研究』五七卷二号
- 一九八五年 九月 「オーストラリア社会の多元文化化を促す諸要因に関する若干の考察(一)」『法学研究』五八卷九号
- 一九八五年一〇月 「オーストラリア社会の多元文化化を促す諸要因に関する若干の考察(二完)」『法学研究』五八卷一〇号
- 一九八六年 七月 「マルチカルチュラル・オーストラリアの諸問題」山沢逸平・渡辺昭夫・日豪調査委員会編『日豪関係研究報告(新しい日豪関係へ向けて)』七号
- 一九八六年一二月 「マルチカルチュラル・オーストラリア一九八六——一九八六／八七年度労働党連邦政府予算とマルチカルチュリズム」『オーストラリア研究紀要』一一二号
- 一九八七年 一月 「人種・エスニック関係研究とコンティンジェンシー・アプローチ——マルチカルチュラル・オーストラリア研究序説」『法学研究』六〇卷一号
- 一九八七年 四月 「シドニー・オーストラリアの都市」藤田弘夫・吉原直樹編著『都市・社会学と人類学からの接近』ミネルヴァ書房
- 一九八七年 五月 「インドシナ難民とオーストラリア社会——新しい国民社会のアイデンティティを求めて」(成蹊大学アジア太平洋研究センター オーストラリア研究シリーズディスカッションペーパー)成蹊大学アジア太平洋研究センター
- 一九八八年 一月 「脱工業社会のエネルギー・素材・技術・労働——脱工業社会の微視的変動分析」『法学研究』六一卷一号

- 一九八八年 五月 「日本社会の国際化と人種・エスニック集団関係」『法学研究』六一巻五号
- 一九八八年 一月 「インドシナ難民とオーストラリア」川口浩・渡辺昭夫編『太平洋国家オーストラリア』東京大学出版会
- 一九八九年 一〇月 「オセアニア——オーストラリア社会の国際化と国内統合」有賀貞・宇野重昭他編『講座国際政治3——現代世界の分離と統合』東京大学出版会
- 一九九〇年 二月 「太平洋国家オーストラリアの移民政策と経済発展——フィッツジェラルド報告書の検討」山澤逸平・渡辺昭夫編『二〇〇〇年に向けての日豪関係』社団法人日本経済研究センター研究報告、七〇号
- 一九九〇年 三月 「オーストラリアの労働問題——生産性向上と組合改革」藤森三男編著『オーストラリアの企業環境と経営』慶應義塾大学地域研究センター
- 一九九一年 六月 「Guest Worker Politics in Japan」, *Migration: European Journal of International Migration and Ethnic Relations*, No.9.
- 一九九一年 六月 「Australia-Japan Economic Relations and Australia in 2001」, *Social Alternatives*, Vol.10, No.2.
- 一九九一年 八月 「オーストラリア——大量移住政策と多文化主義の継続をめくり百家争鳴」『外交フォーラム』四巻八号
- 一九九二年 一月 「二〇〇一年のオーストラリア——日豪経済関係の視点から」『法学研究』六五巻一号
- 一九九二年 一月 「エスニシティの社会学」梶田孝道編著『国際社会学』名古屋大学出版会
- 一九九二年 六月 「Labour Problems in Australia」, in Kyoko Sheridan ed., *The Australian Economy in the Japanese Mirror*, University of Queensland Press.
- 一九九二年 六月 「ホーク連邦労働党政権とオーストラリア政治——一九八三年から一九八七年まで」『法学研究』六五巻六号

- 一九九二年 六月 「社会変動と技術・労働・組織・人間」現代の地域主義とエスニシティ 十時嚴周編著『現代の社会変動——世界の中の日本社会』慶應通信
- 一九九二年一〇月 「二〇〇一年のオーストラリア——新国旗および共和国論争の視点から」『法学研究』六五巻一〇号
- 一九九二年一二月 「人種・民族・エスニシティ」、「民族自決」、「多文化主義」『世界』五七六号臨時増刊『世界を讀むキーワード』岩波書店
- 一九九三年 四月 「多文化主義の可能性と限界に関する序論的考察」『法学研究』六六巻四号
- 一九九三年 六月 「二〇〇一年のオーストラリア——一九九三年連邦総選挙の視点から」『法学政治學論究』一七号
- 一九九三年 九月 「社会変動とエスニシティ」『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』三六号
- 一九九四年 三月 「脱工業社会とエスニシティ——『遠隔地ナシヨナリスト』と新人種差別」『社会学評論』四四巻四号
- 一九九四年 三月 「オーストラリア連邦形成と首都キャンベラの建設」オーストラリア経済社会事情調査団編『オーストラリア経済社会事情調査報告書——首都機能移転問題を考える』社会経済国民会議
- 一九九四年 六月 「アジア・太平洋国家としてのオーストラリア」慶應義塾大学地域研究センター編『アジア・太平洋秩序の構築(地域研究講座)』慶應義塾大学地域研究センター
- 一九九四年一二月 「二〇〇一年のオーストラリア——人種・民族をこえたアジアとの共存を求めて」『法学研究』六七巻一二号
- 一九九五年 三月 「エスニシティ論の展開(二)」『エスニシティ論の展開(二)』オーストラリアの人種・民族・エスニック集団関係』梶田孝道編『国際社会学』財団法人放送大学振興会
- 一九九五年 九月 「二〇〇一年のオーストラリア——グローバル・コミュニケーションと多文化社会オーストラ

- 一九九五年一月
「現代オーストラリアのナショナルリズム——グローバル・コミュニケーション時代のナショナルリズム」『法学研究』六八巻一一号
- 一九九五年二月
「多文化社会オーストラリアと中国系オーストラリア人」『オーストラリア研究紀要』二二号
- 一九九六年三月
「国民国家と多文化主義」初瀬龍平編著『エスニシティと多文化主義』同文館
- 一九九六年八月
「オーストラリアの多文化主義——文明の衝突から文明の共存へ」『国際問題』四三七号
- 一九九七年三月
「オーストラリアの経済と政治」『国際資源』二二六七号
- 一九九七年一月
「グローバルゼーションとオーストラリア——グローバルゼーションが生んだハンソン論争」『法学研究』七〇巻一〇号
- 一九九八年二月
「未完の街 キャンベラ」『三田評論』九九九号
- 一九九八年六月
「多文化社会——変貌する伝統的国民アイデンティティ」『労働と社会——伝統的生活様式と脱福祉国家化』竹田いさみ・森健編著『オーストラリア入門』東京大学出版会
- 一九九八年八月
「経済功利的多文化・多言語主義擁護論の問題点——オーストラリアの事例から学ぶ」『言語』二七巻八号
- 一九九八年一月
「グローバル・メディアとしてのエスニック・メディア——グローバル・メディアとエスニシティ」『Keio SFC Review』一巻一七号
- 一九九八年一月
「グローバルゼーションと国民国家の文化・社会変動」田中宏・大石裕編『政治・社会理論のフロンティア——慶應義塾大学法学部政治学科開設百年記念論文集』慶應義塾大学出版会
- 一九九九年八月
「グローバル化時代の都市先住民——オーストラリアを事例として」青柳清孝・松山利夫編著『先住民と都市——人類学の新しい地平』青木書店

- 一九九九年 九月 「グローバル国家オーストラリアの苦惱」『海外事情』四七卷九号
- 二〇〇〇年 一月 (川崎賢一、陸楽、村永 Leonard 拓也、田村太郎、白水繁彦との共著)「エスニックメディアとしての融合メディア」『情報通信学会誌』一七卷三号
- 二〇〇〇年 七月 「シンポジウム『有賀喜左衛門と社会学』を聞いて」『三田社会学』五号
- 二〇〇〇年 九月 「マイノリティとしての移民・外国人労働者」吉川元・加藤普章編著『マイノリティの国際政治学』有信堂
- 二〇〇〇年 九月 「オーストラリアとはどんな国か」『歴史地理教育』六一三号
- 二〇〇〇年 二月 (関根薫との共著)「多文化主義社会オーストラリアと国民の歴史」『オーストラリア研究紀要』二二六号
- 二〇〇一年 七月 「特集 電子ネットワークと市民社会 (序論)」『三田社会学』六号
- 二〇〇一年 七月 「電子ネットワーク社会の文化戦争——オーストラリアのケース」『三田社会学』六号
- 二〇〇一年 一月 「官と民」『Science of humanity Bensei』三八号
- 二〇〇二年 二月 「文化と国際政治 (序論)」『国際政治』一二九号
- 二〇〇二年 二月 「パネルディスカッション 二一世紀の社会の安全と警察活動」『警察政策』四卷一号
- 二〇〇二年 四月 「オーストラリアの多文化主義とマイノリティ」宮島喬・梶田孝道編『マイノリティと社会構造 (国際社会 4)』東京大学出版会
- 二〇〇三年 一月 “An Introductory Note to the Special Issue on Japanese Society and Ethnicity”, *International Journal of Japanese Sociology*, No.12.
- 二〇〇四年 一月 「多文化交錯社会オーストラリアの市民意識の動態」『法学研究』七七卷一号
- 二〇〇四年 六月 「海域アジアとオーストラリア——アジアの副保安官を目指すハワード首相?」山本信人・関根政美共編著『海域アジア (現代東アジアと日本 4)』慶應義塾大学出版会

- 二〇〇五年 三月 「多文化社会化する欧州の極右台頭と多文化社会日本」有末賢・関根政美共編著『戦後日本の社会と市民意識（叢書21COE-CCCC多文化世界における市民意識の動態7）』慶應義塾大学出版会
- 二〇〇五年 三月 「戦後の公定多文化主義発展史をめぐる歴史戦争」『オーストラリア研究』一七号
- 二〇〇五年 六月 「多文化国家における移民政策のジレンマ——新自由主義・民主主義・多文化主義」『社会学評論』五六卷二五号
- 二〇〇五年一〇月 「多文化主義のなかの白人性——オーストラリアの多文化主義論争から」藤川隆男編著『白人とは何か？——ホワイトネス・スタディーズ』刀水書房
- 二〇〇六年 三月 “An Introduction: A Short History of Australian Multiculturalism”, in Yuka Ishii ed., *The Survival Strategies and Networks of Migrant Professionals in the Asia Pacific*. Ritsumeikan Asia Pacific University, Oita, 2006 (平成一六／一七年度科学研究費補助金基盤研究B研究成果報告書)
- 二〇〇六年 六月 「日豪交流の二三世紀——日本の開国とオーストラリアの開国」『遠近』一一卷六・七号
- 二〇〇六年 七月 「多文化主義社会の到来と人種差別の変容」『自由と正義』五七巻七号
- 二〇〇七年 九月 「多文化主義社会」『女性の社会進出と家族の変容』「少子高齢社会」『多文化社会オーストラリアの二一世紀』竹田いさみ・森健・永野隆行編『オーストラリア入門』東京大学出版会
- 二〇〇八年 三月 “The Demise of Australian Multiculturalism?”, in Yuka Ishii ed., *Political and Social Participation of Asian Professional Immigrants in Australia*. Ritsumeikan Asia Pacific University, Oita, 2008 (平成一八／一九年度科学研究費補助金基盤研究B研究成果報告書)
- 二〇〇八年一二月 「アジア・太平洋国家化するオーストラリアのなかのラッド政権」『慶應義塾大学法学研究会編『慶應義塾創立一五〇年記念法学部論文集 慶應の政治学 地域研究』

- 二〇〇八年十二月 「多文化共生のカギは『競生』に」『公明』三六号
- 二〇〇九年三月 「オーストラリアにおける多文化主義と移民政策の変容——オーストラリア多文化主義の歴史的發展とその変容」石井由香・関根政美・塩原良和共著『アジア系専門職移民の現在——変容するマルチカルチュラル・オーストラリア』慶應義塾大学出版会
- 二〇〇九年五月 「ラッド政権の政策——アジア・太平洋国家オーストラリアのラッド政権」国立国会図書館調査及び立法考査局編『オーストラリア・ラッド政権の一年——総合調査報告書』国立国会図書館
- 二〇〇九年一月 「多文化社会オーストラリアのシテイズンシップ・テスト」『学術の動向』一四卷一〇号
- 二〇一〇年二月 「白豪主義終焉からシテイズンシップ・テスト導入まで——多文化社会オーストラリアのガバナンス」『法学研究』八三卷二号
- 二〇一一年六月 「ハワード・シテイズンシップ・テストからラッド・シテイズンシップ・テストへ——多文化社会オーストラリアのガバナンス」『法学研究』八四卷六号
- 二〇一二年五月 「ポイント制と永住許可——オーストラリアの場合（特集 移民の「選別」とポイント制）」『移民政策研究』四号
- 二〇一三年三月 「アジアのなかのオーストラリア——アジア・太平洋の白豪主義国家から多文化主義国家へ」松浦正孝編著『アジア主義は何を語るのか——記憶・権力・価値』ミネルヴァ書房
- 二〇一三年三月 「多文化社会の将来に向けて——ノルウェー事件と日本」吉原和男編著『現代における人の国際移動——アジアの中の日本』慶應義塾大学出版会
- 二〇一三年三月 「私の研究履歴——多文化主義と三〇年」滝沢三郎・東洋英和学院大学大学院国際協力科編『私の勉強法・研究法——秘訣を公開します』東洋英和学院大学大学院国際協力研究科
- 二〇一三年七月 「現代オセアニア政治・社会論（序説）」『法学研究』八六卷七号

二〇一四年 八月 「先進諸国の地域研究——オーストラリア研究の視点から（特集 地域研究の軌跡と展望）」『三田評論』一一八二号

二〇一四年一〇月 「オセアニア（オーストラリア）の国際移民と多文化共生（特集 地域研究の「粋」を味わう——現地から中央アジア、オセアニア、EU、東南アジアを読む）」『學術の動向』一九卷八号

二〇一五年 二月 （池田真朗、大森正仁、山本爲三郎、岩谷十郎、山本信人、田上雅徳との共著）『法学政治学論究』一〇〇号記念座談会「回顧から創造へ」『法学政治学論究』一〇五号、九九—一二二頁

【書評・紹介】

一九八四年 九月 「書評」 James Jupp (1983) *Party Politics: Australia 1966-1981* 『法学研究』五七卷九号

一九八四年一〇月 「書評」 Robert Birrell, Doug Hill and John Stanley, eds. (1982) *Quarry Australia?: Social and environmental perspectives on managing the nation's resources* 『法学研究』五七卷一〇号

一九八九年 一月 「書評」 ジョン・レックス著（鶴木真・桜内篤子訳）『人種問題の社会学』『法学研究』六二卷一号

一九九三年 五月 「書評」 竹田いさみ著『移民・難民・援助の政治学』『国際政治』一〇三号

一九九四年 八月 「書評」 Stephen Castles and Mark J. Miller (1993) *The Age of Migration: International Population Movement in the Modern World* 『法学研究』六七八号

二〇〇〇年 六月 「書評」 平野健一郎著『国際文化論』『国際問題』四八三号

二〇〇二年 三月 「Book Review」 国際政治とエスニシティ——吉原和男／クネヒト・ペトロ編『アジア移民のエスニシティと宗教』『東方』二五三号

二〇〇三年一〇月 「書評」 華人の中国アイデンティティ離れを考察——田中恭子著『国家と移民——東南アジア

- ア華人世界の変容」名古屋大学出版会、二〇〇二年『レヴァアアサン』三三三号
- 二〇〇四年 三月 「書評」W・L・ワラス著(水上徹男・渡戸一郎訳)『エスニシティ・人種・ナショナリティのゆくえ』『社会学評論』五四巻四号
- 二〇〇六年 二月 「書評」大庭三枝著『アジア太平洋地域形成への道程——境界国家日豪のアイデンティティ模索と地域主義』『国際政治』一四四号
- 二〇一〇年 七月 「書評」松井清著『北アイルランドのプロテスタント——歴史・紛争・アイデンティティ』『三田社会学』一五号
- 二〇一三年 三月 「紹介と批評」ロビン・コーエン著(駒井洋訳)『新版グローバル・ディアスポラ』『法学研究』八六巻三号

【講演】※最近一〇年間のみ掲載

- 二〇〇四―二〇一五年 川崎市立橘高校オーストラリア研修旅行のための研修授業「①オーストラリアの歴史」
- 二〇〇六年 「②日豪関係の歴史」年二回九〇分授業を提供
- 二〇〇六年 日豪協力友好条約三〇年記念豪日交流基金・国際交流センター共催『豪州講座』(全一〇回)のコーディネーターを担当
- 二〇〇六年 五月二一・二八日 「オーストラリアについて(全二回)」(①多文化主義国家オーストラリアへの軌跡「②アジア・太平洋国家オーストラリアへの軌跡——日豪交流二・二世紀)川崎市国際交流協会国際理解講座『ワールドカップの対戦国と開催国について知ろう』川崎市国際交流センター
- 二〇〇六年 七月一五日 「オーストラリア概略」豪日交流基金『豪日交流基金教員研修担当者プログラム事前説

- 二〇〇六年一〇月二七日
「多文化共生を考える——オーストラリアの現場から」国立民族学博物館講演会『多文化共生を考える』（第一部）国立民族学博物館
- 二〇〇七年 七月二一日
「オーストラリアに学ぶ多文化共生」鳥取県国際交流財団主催『とっとり国際塾第二回公開講座』倉吉未来中心
- 二〇〇七年二月一六日
「移民を受入れる国——オーストラリアの現在と未来」仙台国際交流協会「多文化共生公開セミナー」仙台国際センター
- 二〇〇八年 五月三一日
「オーストラリアの多文化共生政策」（財）自治体国際化協会『平成一〇年度地域国際化協会連絡協議会総会講演』都市センターホテル
- 二〇〇八年 八月一七日
「（基調講義Ⅰ）多文化主義とその変容——共生から競生へ」国連大学グローバルセミナー、第八回北海道セッシン『グローバル時代の文化と言語』北海道教育大学札幌校
- 二〇〇九年 九月一四日
「多文化共生の先進国オーストラリアから学ぶ」（財）自治体国際化協会市民国際プラザ特別企画展講演会『なぜ今、多文化共生か？』自治体国際化協会
- 二〇一〇年一〇月二三日
「オーストラリアの多文化共生の軌跡」岡山国際交流協会、岡山国際シンポジウム、第一部、岡山国際交流センター
- 二〇一一年 七月二三日
「移民社会多文化オーストラリアから学ぶ共生のコツ」杉並区交流協会講演会『外国文化を知ろう&インターナショナルスクール見学』あんさんぶる荻窪
- 二〇一三年 八月 六日
「オーストラリアの多文化主義とマイノリティ」特定非営利活動法人神戸定住外国人支援センター（KFCC）主催『多文化共生を考える研修会二〇一三』国際健康開発センター
- 二〇一五年 七月 七日
「オーストラリアの魅力——オーストラリアってどんなところ？」練馬区海外友好協会

二〇一五年 七月二十九日

『練馬区海外友好都市紹介講座』練馬区役所

「オーストラリアと三五年——オーストラリアの過去・現在・未来」関西日豪協会主催
『関西日豪協会定期総会講演会』大阪ホテルオークラ